

らかにして、僅かに此の中の一姓なる咄羅勿(舊唐書に咄羅勿と記せるは誤)即ち俱羅勃が、貞觀二十一年に燭龍州とせられしことを記さるゝ外、絶えて史上に記載の存するもの無く、到底先きに見たる鐵勒九姓の如き部族と對比せらるべき勢力を有したるものとは考ふべからず、然も舊書に「本九姓部落」と記せる以上、之が一箇の團體として存したりしものなることは疑無し、思ふに此等の九姓は、元來回鶻なる一部の團體を構成したる九姓にして、舊唐書に其の中の藥羅葛は「可汗之姓」なりと見ゆれば、(新唐書には藥羅葛回紇姓也と見ゆ)九姓中の藥羅葛姓より首領を立て、其の團體、即ち回鶻部を統合したるものにして、回鶻が勢盛となるに及びて統合するに至りたるものには非るべし、新唐書には裴羅が「悉有九姓地」と記し、藥羅葛・胡咄葛以下こゝに列擧せられたる九姓なるものが、裴羅によりて初めて統べらるゝに至りたるが如く記せども、此の記事の基を成せる舊唐書の記する所は、必ずしもかゝる意を示せるものには非ず、即ち同書には前述の如く回鶻が涼州方面より逐はれ、磧北の烏德健山地方に據るに至りしを記し、ついで回鶻に十一都督ありとし、之を説明して「本九姓部落」たる藥羅葛以下の九姓を擧げ、更に拔息密・葛邏祿の二部を破り、合して十一部となりしが、其の毎部に都督一人を置けりと爲せるものにして、此の九姓なるものは、本來、即ち裴羅の時以前より回鶻部を構成したるものなることを示せるに過ぎざる如し、されば等しく九姓といふも、こゝに記さるゝものは前に見たる鐵勒九姓とは全く別個の小部族にして、新唐書が前述の如く「與僕骨・渾・同羅・拔野古・思結・契苾六種相等夷、不列於數」とせるはもとより正確の記事なりとす、此の如きを以て舊唐書と唐會要とを根本の據とすれば、回鶻部なるものは本來九姓より成立したるものにして、然も一方また鐵勒の九姓團體に屬したるもの、即ち